東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸事業の新たな連携

「個性の大地」

第６号（平成１３年１１月）
東北地方整備局 河川部
地域河川課　発行

＜地域連携シリーズ：各県からの報告＞

「　田　沢　川　ダ　ム　竣　工　」

― 地域の期待を一心に無事竣工を迎えた ―

山形県田沢川ダム建設事務所長　早坂登志勝



田沢川ダムは、昭和４６年７月１６日未明の大雨による被害を契機にダム建設計画がなされ、平田町や近隣の酒田市及び松山町の上水道の水源が不安定で取水量も減少していることから、水道用水供給源も考慮した多目的ダムとして建設することになりました。従来の水源は、山形県の内陸部を縦断し流れ下った最上川河口部付近であるため、おいしい水とは断言できなかったのですが、新しい水源となるダム周辺は人家や田畑などがなく、**豊富な森林に囲まれて自然の恵みを十分に受けた「おいしい水」が飲めると、地元住民がダムの完成に掛ける期待は大変大きいものがありました**。

完成までに要した年数は、昭和５２年度に予備調査を開始し、昭和５６年度からの実施計画調査、昭和６１年度の建設工事着手からでも１６年の長い歳月を掛けて完成しましたが、これまでの諸先輩や地元の方々の苦悩と努力が各報告書の合間から見ることが出来ます。特に用地問題ですが、水没地が国有林を含む山林で、人家等がなかったことと、**当時の山形県内は昭和４２年の羽越災害をはじめ各所で大水害が発生しており、災害の少ないこの庄内地方でも昭和４４年と４６年に**、東隣の最上地方においてはこれに加えて昭和４９年から３ヶ年連続で大水害に見舞われていたため、**地元住民が危機感を強く持たれて、初期の段階から地区住民が主体となった「ダム建設対策協議会」を結成していただき**、地元住民への説明会や懇談会を連夜のように開催して理解していただいたことが短期間で解決した大きな理由であったと思われます。

当ダムでは、幸いにも昭和４６年当時のような洪水に見舞われることなく完成を迎えることができましたが、**竣工式において地元の方々から「これからはみんな（県や施工業者）とも会えなくなるし、（工事現場だけではなくこの地区が）静かになり、寂しくなるなあ」「あんな水害が起きなくなるな」と言われたときは、一大プロジェクトが地元にもたらした期待の大きさと親しみを感じることができました**。

今、公共事業のマクロ的なアカウンタビリティーが要求されていますが、以前から諸先輩方が実践しており、住民と直接接して協力をいただき、初めて大プロジェクトが成り立つことを改めて教えていただいたように思います。



〈田沢川ダム記念放流スイッチ入電〉
(H13.9.10)

地元平田町では、ダムを文化的資産として位置づけており「彫刻の散歩道」１４カ所目のモニュメントを堤体中央部に寄贈していただきました。新緑や紅葉を求めて多数の観光客や地元住民が訪れるた時、自然景観に恵まれたダムが治水や水源としてのみでなく、**人々の心休まる場所、文化資源として大いに地域の活性化に貢献することを願っております**。



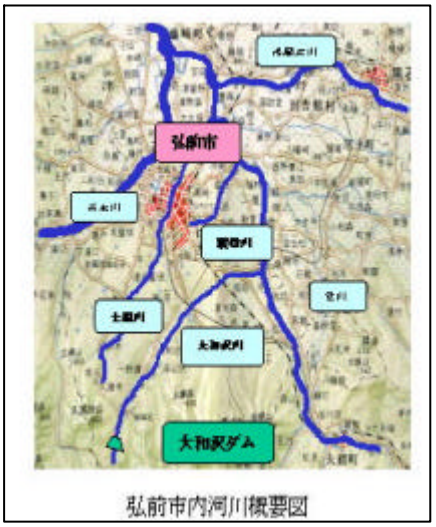
〈完成した田沢川ダム〉

＜地域の目・地域の声コーナー＞

安全で豊かな暮らしを実現する大和沢ダムへの期待
～弘前市民を洪水から守り、豊かな河川環境の復活を夢見て～

青森県弘前市建設部土木課　課長補佐　吉崎義起





弘前市内河川概要図

「お城と桜とリンゴのまち」として知られている弘前市は、青森県の南西部、一級河川岩木川の中流域に位置し、城下町・学園都市としての文化的風土と恵まれた自然環境を背景に、津軽圏域の経済・文化・交通・観光等の拠点となっています。市街地は、西側を岩木川、東側を岩木川の右支川である平川(ひらかわ)に囲まれており、この市街地の中をほぼ南西から北東に縦断するように土淵川(つちぶちがわ)・腰巻川(こしまきがわ)・大和沢川(おおわさわがわ)等の平川の左支川が流れています。

この大和沢川の上流部(一野渡鷲ノ巣地先)に、青森県が平成5年度から国土交通省の補助ダム事業として実施計画調査を進めている大和沢ダムがあります。**大和沢ダムは、区画整理により急速に宅地化が進んでいる大和沢川の洪水調節のほか、土淵川・腰巻川・大和沢川の流水の正常な機能の維持を目的としており、水環境改善用水の導入機能を合わせ持つ全国初の「水環境対策ダム」です。**

旧市街地を貫流する土淵川は、河川改修や昭和49、50、52年等の水害を契機とした災害復旧事業により、河道並びに放水路トンネルが整備され1/50の治水安全度が確保されました。しかし、**生活雑排水等の流入により別名”ドブチ川”とも称されるほど水質の悪化が進むとともに五分護岸による河道整備も影響してか、川は市民から遠ざかってしまいました**。藩政時代からの市民と川のいい関係を取り戻そうと、河川清掃や下水道整備(H12末現在78.4%)等を積極的に展開するとともに、**市民と水のふれあい及び交流拠点の創造等を図るために県事業として、平成元年度から河川浄化、平成7年度から河川再生事業が鋭意進められています**。**豊かな河川環境の復活には、土淵川の水量確保が鍵であり、最終仕上げとしての大和沢ダムからの導水がなされて完成することになります**。

また**新市街地を貫流する腰巻川は**、土淵川に注ぐ準用河川でしたが、市街地の拡大に伴い平川に直接流入させる放水路計画が立案され昭和57年度から事業化されるとともに、昭和62年10月には「ふるさとの川モデル事業」の認定を受け、土地区画整理事業と一体となった河川整備が進められました。現在、まちづくりと一体になった水辺プラザとしての整備は完了していますが、**青写真とは別に、低水路の流量が極端に少なく、また汚濁もひどく、とても水辺と親しむ雰囲気ではありません**。**沿川住民や学区児童からも一刻も早い清流の実現が叫ばれて久しく、大和沢ダムからの河川維持用水の確保が急がれています。**

大和沢ダムは、弘前市内では初めてのダムとなりますが、市内に展開されている一連の河川事業の総仕上げとして位置づけられるものであり、また、安定的な用水が確保されることにより、冬期間の快適な生活環境を創出する消流雪事業の推進にも効果を発揮するものと、私共の期待は大きく膨らんでいます。


土 淵 川


腰 巻 川


大和沢川

＜連携トピックス＞

八戸市内の土橋川において、排水ポンプ車活躍する！！

去る**９月１１日、台風１５号による豪雨により**、青森県八戸市内を流れる準用河川土橋川は、平成１１年１０月末の豪雨による大きな被害に続き、越水氾濫の危機に直面し、**午後７時５０分、八戸市は周辺地区の約１，６００世帯に避難勧告**を出しました。避難勧告は翌朝７時に解除されましたが、結果的に**１．４ha、４５戸が浸水被害**を受けました。

このような状況の中で、**東北地方整備局においては**、１１日午後８時３０分八戸市から青森県を通じ、災害対策車出動の要請を受け、**同８時５０分青森工事事務所所有の排水ポンプ車及び照明車を出動**させました。

本年、１月６日省庁再編に伴い、整備局が発足し、事業を通じ、県、市等の自治体との関係が、益々、緊密な間柄となりました。今回の災害対策車の出動にあたっては、**互いの機関が、連携をとりながら迅速な対応が図られた**ものと思っています。

後に、地元八戸市の関係者より、地元住民の声として“**整備局のポンプ車が来たときは安心した。素早い対応に感謝している。**”との言葉をいただきました。

人々の生命、財産を守り、民生安定のため、**今後も、国と自治体との強固な連携を意識して業務にあたりたいと考えています**。



〈排水ポンプ車による排水状況〉

＜新たな連携による地域づくり＞

「東北地方砂防関係事業施策検討会」が開催される
～県と国の担当者が新たな行政の課題について徹底的な議論を展開！～

１０月２５日、仙台市内で東北各県の砂防関係事業の実務責任者と国の担当者により、砂防関係事業の新たな課題に向けて、**東北地方初の「砂防施策検討会」が開催**されました。会議には、東北６県、本省砂防部、整備局の砂防事業担当者、２６名が出席しました。

会議では、この４月に施行された土砂災害防止法に基づく今後の基礎調査と区域指定に向けての課題、新たなソフト対策として注目されている土砂災害相互通報システム整備事業の推進に関する課題、整備局移行後の業務の進め方などについて、活発な議論が交わされました。特に、整備局移行後の業務の進め方については、**中央省庁等改革基本法等の改革の理念に照らし、より効率的な行政の仕組みとはどうあるべきかについて、実務担当者の立場で、より具体的な意見交換がなされました**。

明治以来の行政システムの改革は緒についたばかりですが、砂防関係事業を通じ、地域の発展のため、**より効率的な新たな県と国との関係を築き、それを東北から全国に発信して行くための第一歩の会議となりました**。



〈活発な議論が行われた検討会の様子〉

＜県担当者の声コーナー＞

秋田の川づくり

秋田県には、雄物川をはじめ２９６の一級河川と、馬場目川など５１の二級河川があります。これまで治水を重視した、河川整備を進めて来ましたが、本県においても、良好な河川環境の保全・復元のため、多自然型川づくりに積極的に取り組んでおります。また、子吉圏域河川整備計画の策定では、地域住民の意見を取り入れるため、地元説明会の後、川づくり懇談会や協議会を設立し、水辺空間の利用や維持管理に関することまで地域住民と一緒に考えて川づくりをしております。河川整備計画だけでなく、**維持管理についても、よく目の行き届く地域住民に協力してもらうことは、地域と連携した事業への転換として、これからの行政が進めていくべきことであると考えております**。

人々が安心して暮らせる社会を築き、また、今ある美しい川を後世に残すため、これからも**地域が望む、地域のための川づくりを県民と一緒になって考えていきたいと思っております**。



秋田県建設交通部
河川課
河川、防災・海岸班
技師　由利　一

＜山・川・海みちのくのホットニュース＞

「鷹生ダム定礎式」厳かに開催！
～地元小・中学校の生徒達が自分達の夢をダムに託す～

１０月４日、岩手県大船渡市の鷹生ダム堤体建設現場で、地権者会の方々や増田岩手県知事、甘竹大船渡市長など約５５０人の関係者により、鷹生ダム定礎式が厳かに開催されました。**定礎式では、鷹生ダムの完成と地域の発展を祈念し、地元日頃市小学校、日頃市中学校の生徒による自分たちの将来の夢などを書いた石をダムの基礎に埋める“メモリーストーン”が行われました。**

鷹生ダムは、洪水調節と水道用水の確保などを目的として、平成１８年の完成を目指し、今後本格的なダム本体の建設に着手します。



〈写真２〉

〈写真１〉

〈写真１〉増田岩手県知事などによる鎮定の儀
〈写真２〉地元長安寺太鼓保存会の中学生による太鼓が定礎式を盛り上げる

編集後記

現在、１０月１５～１８日の青森県を皮切りに１１月２６～２９日の宮城県まで各県の御協力のもと、整備局移行後の初めての河川局所管事業の完了検査を実施しています。昨年まで本省が行っていた各課、各事業単位では無く、全ての事業を同時に行っています。整備局が生まれたメリットを最大限に引き出すため、新たな仕組みづくりにこれからも各県と一緒に努力して行きたいと考えています。

今回は、弘前市土木課の吉崎課長補佐を始め多くの方々から投稿を寄せていただきました。地域の話題、新たな取組みなど積極的な投稿をお待ちしております。

本誌に関して御意見、問い合わせがございましたら　地域河川課　までお願いします。
発行　国土交通省 東北地方整備局 河川部 地域河川課
〒980-8602　仙台市青葉区二日町９番１５号
℡022-225-2171(大代表)、225-2024(直通)　FAX022-282-6690
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ、http://www.thr.mlit.go.jp/kasen/



写真：第１回地域河川課旅行会（H13.9.29～30）